

DefDOG 1974

極東國際軍事裁判所

亞米利加合衆國其他

對

荒木貞夫其他

宣誓供述書

供述者 長崎縣長崎市東小島町一四七番地

源 田 實

明治三十七年八月十六日生

自分儀我國ニ行ハルル方式ニ從ヒ先ツ別紙ノ通り宣誓ヲ爲シタル上次ノ如ク供述致シマス

一私ハ元海軍大佐源田實デアリマス。私ハ一九四〇年十一月一日第一航空戦隊参謀ニ任命セラレ一九四〇年十一月十五日海軍中佐ニ任ゼラレ、一九四一年四月一日第一航空戦隊参謀ニ任命セラレ一九四二年六月下旬迄其ノ職ニ就テキマシタ。

二一九四一年二月上旬旗艦加賀ニテ有明灣在泊中私ハ個人的ニ親交ノアツタ第十一航空戦隊参謀長大西少将ヨリ「要件ガアルカラ至急鹿屋ニ來テ呉レト」ノ手紙ヲ受取リマシタ。ソコデ翌日鹿屋ニ行キ艦隊司令部ニ於テ同少将ニ面會シマシタ。其ノ時同少将ハ聯合艦隊司令長官山本中将ノ大西少将宛ノ私信ヲ示サレマシタ。

此ノ手紙ハ現在何處ニアルカハ知リマセヌガ其ノ要旨ハ「日米開戦ノ場合ハ劈頭第一航空戦隊、第二航空戦隊ノ全力ヲ以テ布陸方面ノ米艦隊主力ニ痛撃ヲ與ヘ、當分米艦隊ノ西部太平洋進攻ヲ不可能トナラシメナケレバ作戦成功ノ見込ナシ此ノ爲ニ同艦隊部隊ノ指揮官ハ自分ガ拜命シテ實行シタイト思フ此ノ作戦ニ就テ研究

シテ呉レト言フ意味デアリマシタ。

大西少將ハ私ニ對シ「本件ニ就テ極秘裡ニ其ノ作戰ノ可能性、實施方法、使用兵力等ニ就テ研究シテ呉レト要望サレマシタ、私ハ歸艦後此ヲ研究ニ取掛リ約一週間乃至十日ノ後大西少將ヲ訪問シ私ノ答申を手渡致シマシタ。私ハ其ノ計畫ヲ凡ユル方面カラ検討シ其ノ攻撃ハ極メテ困難デアアルガ不可能デアナイトノ結論ニ到達シマシタ。大西少將ハ私ノ答申ヲ若干ノ參考トシ同少將自身ノ見解ニ依ル答申ヲ聯合艦隊司令長官ニ出サレマシタ。

三一九四一年四月第一航空艦隊編成當時眞珠灣攻撃ニ關スル山本長官ノ着想ノアル事ヲ知ツテ居ツタノハ同司令部職員中司令長官南雲中將、參謀長草鹿少將、首席參謀大石中佐及私デアリマシタ。爾後九月初旬迄我々ハ此ノ作戰ニ關シ具體的、計畫、立案等ハ致シマセンデシタ。

九月廿日參謀長草鹿少將ハ幕僚ヲ召集シ本攻撃計畫ノ研究立案ヲ下

命サレ私ハ其ノ幹事ヲ命ゼラレマシタ。

私ハ赤城ニ於テ約一週間ノ後作戰計畫ノ概案ヲ立案致シマシタ、此ノ概案ハ概ネ實際行ハレタ作戰計畫ト同様ノモノデアリマシタガ相違シタ主ナル點ハ次ノ様ナモノデアリマシタ。

イ出撃集合點ヲ厚岸灣又ハ陸奥海灣ニ選定シタコト

ロ先遣部隊（潜水艦）トノ關聯ヲ有シナカツタコト

ハ時機ニ關シテハ何等ノ具体性ヲ有シナカツタコト

ニ空襲計畫等ハ詳細ニ亘ラナカツタコト

四 九月十二、三日頃海軍大學校ニ於テ聯合艦隊圖演ガ行ハレマシテ、布陸作戰關係ハ一般ト切離シテ別個ニ實施サレマシタガ此ノ圖上演習ニ於テハ單對灣ヲ使用シタ外概ネ前記概案ニ依ツテ研究致シマシタ。

十月一日デアツタト思ヒマスガ南雲長官ハ旗艦ニ各航空戰隊司令部職員、各母艦艦長各母艦飛行長及飛行隊長ヲ參集セシメ開戰ノ場合當艦隊ハ布陸空襲ノ任務ヲ受ケルベキヲ以テ爾後ノ訓練並ニ研究ハ

此ノ點ニ重點ヲ置ク様訓示サレマシタ。

聯合艦隊ノ最後ノ圖上演習ハ十月初旬内海西部ニ於テ長門艦上ニテ行ハレ之ハ空母三隻使用案デ實施致シマシタ。

其十月下旬機動部隊司令部ニ於テハ布陸作戰計畫（機案機動部隊命令第一號）ヲ首席參謀ガ立案シ首席參謀之ヲ携帶シ聯合艦隊司令部ニ赴キ承認ヲ求メマシタ。十一月二日機動部隊全兵力（艦上戰鬥機隊及第二濱水隊ヲ除ク）ハ有明灣ニ集合シ旗艦赤城ニ各所轄長以上及士官搭乗員ヲ參集シ開戰ノ場合ノ當部隊ノ任務ヲ告ゲ其ノ豫行ノ爲佐伯及宿毛ヲ目標トシテ演習ヲ行フ旨及其ノ演習計畫ヲ説明致シマシタ。

六聯合艦隊命令作第一號受領ノ時機ニ就テハハツキリシタ記憶ハアリマセンガ此ノ演習終了直後受領シタト思ヒマス機動部隊命令作第一號ハ直チニ印刷セラレ十一月十七日佐伯灣出港前ニ一部ハ先遣部隊等必要方面ニノミ配布サレマシタ。

此ノ命令ハ發布ノ日附ハ空欄デアツタ様ニ記憶シマス右先遣部隊以

外ニハ發布日附記入ノ上單冠灣到着後配布サレマシタ、聯合艦隊命令作第一號中機動部隊ノ項（切抜イテアツタカ別冊デアツタカ記憶シマセン）ノ要旨ハ次ノ如キモノデアツタト思ヒマス。

「機動部隊ハ極力其ノ行動ヲ秘匿シツ、特命ニ依リ布哇方面ニ進出シ兩戰勢頭布哇方面合衆國艦隊主力ニ對シ攻撃ヲ決行シ之ニ致命的打擊ヲ與フベシ、空襲第一擊ヲX日（後令）黎明時ト豫定ス

空襲終ラバ内地ニ歸還スベシ機動部隊ハ對米交渉成立セバ即時歸還スルモノトス」機動部隊命令作第一號ハ概ネ檢察側提出證據ノ通ト思ヒマスガ此ノ外ニ通信計畫及補給計畫ガ附屬シテキタト記憶シテ居リマス。

機動部隊ノ各艦ハ準備終了後逐次佐伯灣ニ集結シ十六日ニハ加賀ノ他全部集結致シマシタ。

十七日各艦ハ逐次バラバラニ出港二十二日迄ニ單冠灣ニ集結致シマシタ。加賀ハ若干遲レタト思ヒマス。

機動部隊命令作第三號空襲計畫ハ此ノ間ニ完成シ十一月二十四日頃

命令作第一號ト共ニ各艦ニ配布致シマシタ。  
尙命令作第三號ハ概ネ檢察側提出證據ノ通ト思ヒマス此ノ他ニ參謀  
長口達事項トシテ麾下ニ配布セラレタ機動部隊指揮官ノ各種狀況ニ  
對スル復案ハ主トシテ私ガ立案シマシタガ其ノ内主ナルモノハ次ノ  
通りデアリマス。

(イ) 單冠灣出撃東航中米國艦隊、船舶、飛行機乃至ハ第三國船舶等ニ  
遭遇シタ場合ハ警戒艦ノ發見ニ依リ大變針ヲ爲シ極力所在ヲ秘匿  
シテ目的地ニ進撃スルモ萬一艦隊全貌ヲ發見セラレタ場合ハソ知  
ラヌフリシテ引返ス、但シ<sup>1</sup>日以後ハ敢然トシテ豫定通り突撃ス  
ス

(ロ) 諸般ノ情況強襲ニ依ラザルベカラザル場合ハ第一次攻撃隊ト共ニ  
第二次攻撃隊ノ戰鬥機群ヲ同時ニ發進セシメ八十一機ノ戰鬥機ニ  
依リ制空權ヲ獲得シ爾後雷爆隊ヲ實施ス  
十一月二十四日頃各所轄長以上及士官搭乗員ヲ赤城ニ參集シ作戰  
計畫ノ説明及打合せヲ終了シ二十六日出撃致シマシタ。

DezDoc:1974

昭和二十二年（一九四七年）七月一日於東京

供述者 源 三 實

右ハ當立會人ノ面前ニテ宣誓シ且ツ署名捺印シタルコトヲ證明シ  
マス

同日於同所

立會人 奥山八郎



ヲ  
誓  
フ

良心ニ從ヒ眞實ヲ述ベ何事ヲモ黙秘セズ又何事ヲモ附加セザルコト

宣  
誓  
書

(署名  
印)

源

田

實